

# 都市再生整備計画 事後評価シート

## 柏中央地区(第2期)

令和6年1月

千葉県柏市

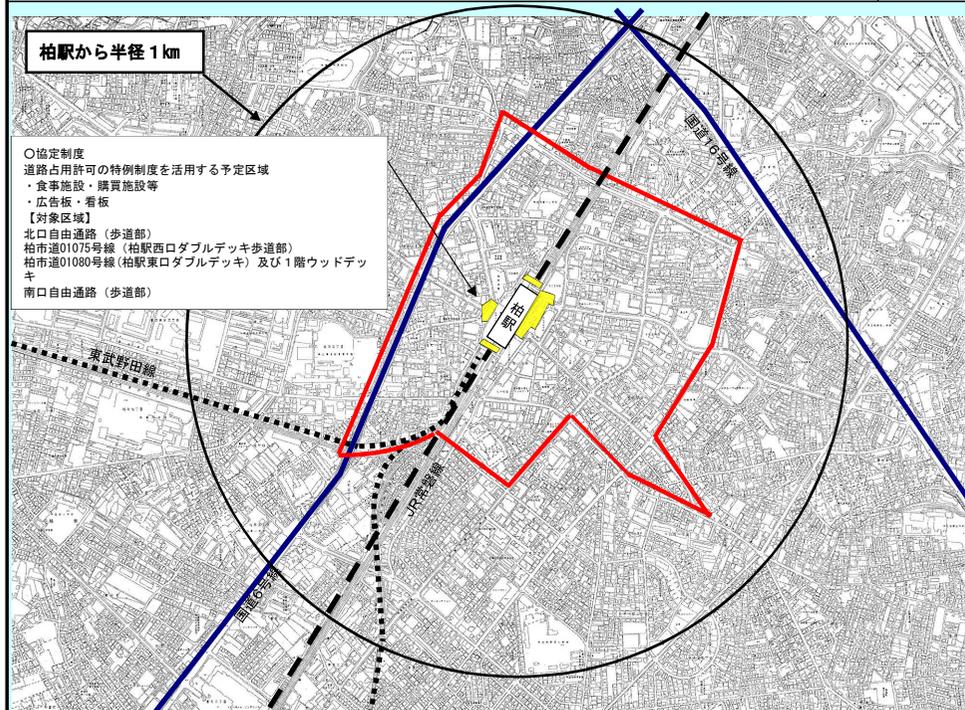
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	千葉県		市町村名	柏市		地区名	柏中央地区(第2期)			面積	87.8	
交付期間	平成31年度～令和5年度		事後評価実施時期	令和5年		交付対象事業費	-	国費率	-			
1)事業の実施状況	事業名											
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業										
		提案事業										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	事業名									
		提案事業	削除/追加の理由									
	新たに追加した事業	基幹事業	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響									
提案事業												
交付期間の変更	当初	平成 年度 ~ 年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響									
	変更	平成 年度 ~ 年度										
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ		
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期		
	指標1	賑わいの創出	人	85,200	H31年度	94,100	令和5年度	98.471 (R4年度調査)	○	あり	新型コロナウイルス感染症拡大により、計画期間中大幅に歩行者交通量が減少する時期があったが、「一般財団法人柏市まちづくり公社」(都市再生推進法人)による取組み(食事施設や購買施設等の設置や情報発信媒体の設置)により、柏駅前部分の賑わい創出や魅力増進が図られ、最終的には目標値を達成することができた。	-
	指標2								なし			
	指標3								あり			
指標4								なし				
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	その他の数値指標1											
	その他の数値指標2											
	その他の数値指標3											
	その他の数値指標4											
4)定性的な効果発現状況	柏市まちづくり公社(都市再生推進法人)による取組み(食事施設や購買施設等の設置や情報発信媒体の設置)により、柏駅前部分の賑わい創出や魅力増進が図られた。											
5)実施過程の評価	実施内容					実施状況					今後の対応方針等	
	モニタリング	・歩行者交通量調査によるモニタリング				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					●	今後も歩行者交通量調査によりモニタリングを行う。令和5年度から、カメラを設置し、同システムによる調査に移行することで、時間帯や天気による変動が可能になる。
	住民参加プロセス	柏市まちづくり公社(都市再生推進法人)によるダブルデッキ及びウッドデッキの利活用の取組み(地域と連携した新型コロナウイルス感染拡大対策)				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					●	当該利活用の取組みは、柏駅前部分の賑わい創出や魅力増進に、市民が参加して直接関与できるものである。引き続き、変化する社会情勢に地域と連携して対応し、市民のための多様な活動の場としての環境を整えていく。
	持続的なまちづくり体制の構築	・柏市まちづくり公社(都市再生推進法人)によるダブルデッキ及びウッドデッキの利活用の取組み(独自制度の構築と運用)				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					●	引き続き、都市再生推進法人による道路占有許可特例制度を活用した独自の取組みを継続するとともに、社会情勢の変化に合わせて運用の改正を行っていくことで活動の継続性を高める。柏市まちづくり公社、一般社団法人柏アーバンデザインセンター(UDC2)市を含め、様々な団体・組織等との連携を深めることで取組みの間口を広げるとともに、活動の継続性を高める。

## 様式2-2 地区の概要

### 柏中央地区(千葉県柏市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
	歩行者交通量	人	85,200	H31	94,100	R5	98,471	R4
大目標 多様な要素が共存する融合都市の実現 目標 賑わいと憩いのある空間の整備								



凡 例	
	都市再生整備計画の区域
	道路占用許可の特例制度活用区域

まちの課題の変化	<p>【達成されたこと(課題の改善状況)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>柏市まちづくり公社(都市再生推進法人)による取組み(食事施設や購買施設等の設置や情報発信媒体の設置)により、柏駅前部分の賑わい創出や魅力増進が図られた。</li> </ul> <p>【残された未解決の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>柏駅前部分には賑わいを継続して創出し誘引できているが、今後は、回遊性を高め、賑わいの範囲を都市再生整備区域内に拡大するため取組みが必要である。</li> </ul>
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<p>【効果を持続させるための基本的な考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>柏市まちづくり公社(都市再生推進法人)を主体として、これまでと同様、道路占用の特例制度を活用した取組を継続していく。</li> </ul> <p>【改善策の基本的な考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>柏市まちづくり公社、柏アーバンデザインセンター(UDC2)、市を含め、その他の様々な団体・組織等との連携を深めることで取り組みの間口を広げるとともに、事業の継続性を高めること及び将来的な道路整備により、実施エリアの拡大を図ることでソフト、ハード両面から多彩な利活用を促進する。</li> </ul>

# 都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

## (1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

## (2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

## (3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

## (4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>			
B. 目標を定量化する指標	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>			
C. 目標値	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>			
D. その他( )	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと



添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
			基準年度	基準年度	基準年度	目標年度	モニタリング	事後評価	事後評価	事後評価	あり	なし			
指標1	人	「令和4年度 柏市中心市街地歩行者通行量調査」の休日における、以下8地点の歩行者交通量の総数を評価値として整理する。 【計測地点】 ①柏マルイ駅南口拡幅部 ②小柳通り線 ③ヤマモト模型 ④スカイプラザ北側エスカレーター ⑤スカイプラザ南側エスカレーター ⑥デッキ北通路 ⑦柏駅西口エスカレーター ⑧デッキ接続部			85,200	平成31年度	94,100	令和5年度	モニタリング	確定 ●	98,471 (R4年度調査)	事後評価	○		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	事後評価数値である「98,471」は令和4年度中の調査で得た数値であるが、目標値を上回ったことから目標達成度を「○」とした。計画期間中には新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い歩行者通行量が大幅に減少する期間も見られたが、柏市まちづくり公社(都市再生推進法人)による取組み(食事施設や購買施設等の設置や情報発信媒体の設置)により、柏駅前部分の賑わい創出や魅力増進が図られ、従前以上の賑わいを取り戻している。	指標としている「柏駅周辺の歩行者通行量」の計測方法として、休日のうちの特定の一日のみの調査を行っているが、時期や催しもの有無等により生じうる差について考慮する必要がある。
指標2		
指標3		
指標4		
指標5		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方(時期, 場所, 実施主体, 対象, 具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値(ア)		従前値(イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項(指標計測上の問題点, 課題等)
			基準年度		基準年度						
その他の数値指標1							モニタリング				
							事後評価	確定	見込み		
その他の数値指標2							モニタリング				
							事後評価	確定	見込み		
その他の数値指標3							モニタリング				
							事後評価	確定	見込み		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・新型コロナウイルスの感染拡大により、令和2年度から令和3年度においては、利活用の取組みの一部(イベント等スペース事業)を制限し、人々の密な状態をつくらぬような小規模な物販やプロモーションの活動のみで継続した。いくつかの飲食店のテイクアウト品の販売の受け皿ともなり、コロナ禍におけるまちなかの賑わいの維持にも取組みが貢献できた。

・令和3年度には、新たな情報発信媒体として大型デジタルサイネージを設置し、柏駅の玄関口のイメージアップを図るとともに、来街者に向けてのさらなる情報発信を行い、既存の情報発信媒体とともに、柏のまちのプロモーションに努めている。

令和4年度以降は、新型コロナウイルス感染拡大対策を講じるためのチェックリストを独自で作成し、コロナ禍においても、臨機応変に、賑わい創出に資するために取組みを継続した。

・継続的な取組みにより、本事業の枠組みを繰り返し利用する固定客も増え、それらを目的とした方々によって、駅前への来街機会の創出に寄与できた。

## (2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

### 添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
歩行者交通量調査によるモニタリング ※目標を定量化する指標として目標値 94,100人(目標年度H35年度)を設定。	予定どおり実施した	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆実施頻度: 毎年度1回</li> <li>◆実施時期: R2年3月, R3年5月, R4年6月</li> <li>◆実施結果: 歩行者交通量調査は毎年度、同一箇所にて計測しているものであり、比較を容易に実施することができた。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大により未実施。令和4年度時点で目標値を超える結果となった。ただし、特定の一日のみの調査であるため、時期や催しものの有無等により生じうる差について考慮する必要がある。</li> </ul>	今後も歩行者交通量調査によりモニタリングを行う。 令和5年度から、カメラを設置し、同システムによる調査に移行することで、時間帯や天候による変動が把握可能となる。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった(理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった(理由 関係機関との調整)		

### 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
柏市まちづくり公社(都市再生推進法人)によるダブルデッキ及びウッドデッキの利活用の取組み(地域と連携した新型コロナウイルス感染拡大対策)	予定どおり実施した	当該取組みにおいても、コロナ禍に突入し、感染拡大対策の一環として、当初は申請受付内容を制限していた。しかし、地域の複数の市民団体や市との意見交換を重ね、感染拡大対策に関する独自のチェックリストを作成することで、令和4年度より、制限を解除した通常の内容での申請受付を再開した。再開後の初の実施となる利活用户(市民団体)のイベントを、運用方法を検証する題材として連携させ、市民団体と協力して実施した。	当該取組みは、柏駅前の賑わい創出や魅力増進に、市民が参加して直接関与できるものである。引き続き、変化する社会情勢に地域と連携して対応し、市民のための多様な活動の場としての環境を整えていく。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった(理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった(理由)		

### 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名: 組織の概要	
柏市まちづくり公社(都市再生推進法人)によるダブルデッキ及びウッドデッキの利活用の取組み(独自制度の構築と運用)	予定どおり実施した	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成26年度に市が柏市まちづくり公社を都市再生推進法人に指定、ダブルデッキ及びウッドデッキを利活用し、イベント等で使用できる独自制度を構築し、平成28年度より同社で運用している。</li> <li>また、市やUDC2の取組みと連携し、様々な活動も展開されている。</li> </ul>	一般財団法人柏市まちづくり公社	引き続き、都市再生推進法人による道路占用許可特例制度を使用した独自の取組みを継続するとともに、社会情勢の変化に合わせて運用の改正を行っていくことで、活動の継続性を高める。 また、柏市まちづくり公社、柏アーバンデザインセンター(UDC2)、市を含め様々な団体・組織等との連携を深めることで、取組みの間口を広げるとともに、活動の継続性を高める。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった(理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった(理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
柏中央地区(第2期)都市再生整備計画事後評価検討会	一般財団法人柏市まちづくり公社 柏市都市部中心市街地整備課 柏市都市部都市計画課	令和5年8月25日 令和5年12月4日	都市計画課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標2		指標3		その他の数値指標1	
指標名		賑わいの創出 (歩行者交通量)							
種別	事業名・箇所名	指標改善への 貢献度	総合所見	指標改善への 貢献度	総合所見	指標改善への 貢献度	総合所見	指標改善への 貢献度	総合所見
基幹事業			新型コロナウイルス感染症拡大により、計画期間中大幅に歩行者交通量が減少する時期があったが、柏市まちづくり公社(都市再生推進法人)による取組み(食事施設や購買施設等の設置や情報発信媒体の設置)により、柏駅前部分の賑わい創出や魅力増進が図られ、最終的には目標値を達成することができた。						
提案事業									
関連事業	道路占用許可特例の活用 ・食事施設や購買施設等の設置(イベント等スペース事業) ・情報発信媒体の設置(広告事業)	○ ○							

※指標改善への貢献度

- ◎ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △ : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	柏駅前部分には賑わいを継続して創出し誘引できているが、今後は、回遊性を高め、賑わいの範囲を都市再生整備区域内に拡大するため取組みが必要である。			
-------	---	--	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標2			指標3			その他の数値指標1		
指標名													
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類									
基幹事業													
提案事業				分類Ⅲ			分類Ⅰ						
関連事業													

※目標未達成への影響度

- ××: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △: 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- ー: 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ: 内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ: 外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ: 外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)				
------------------	--	--	--	--

#### (4) 今後のまちづくり方策の作成

##### 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
関係者による協議	柏市都市部中心市街地整備課 一般財団法人柏市まちづくり公社 その他関係機関・部署	R5年4月～(次期計画策定)	中心市街地整備課

##### 添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
人々が憩えるパブリックスペースの不足 パブリックスペースを活用した賑わいや文化の育成	柏市まちづくり公社(都市再生推進法人)による取組み(食事施設や購買施設等の設置や情報発信媒体の設置)により、柏駅前部分の賑わい創出や魅力増進が図られた。	柏駅前部分には賑わいを継続して創出し誘引できているが、今後は、回遊性を高め、賑わいの範囲を都市再生整備区域内に拡大するため取組みが必要である。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	柏市まちづくり公社(都市再生推進法人)によるダブルデッキ及びウッドデッキの利活用の取組み	柏駅東口のダブルデッキ及びウッドデッキについては、賑わいの創出や維持のために、これまで同様に、都市再生推進法人による道路占用許可特例制度を適用し、取組みを継続的に実施していく。	道路占用許可特例制度を活用した事業 ・食事施設や購買施設等の設置(イベント等スペース事業) ・情報発信媒体の設置(広告事業)

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策  ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	柏駅前部分には賑わいを継続して創出し誘引できているが、今後は、回遊性を高め、賑わいの範囲を都市再生整備区域内に拡大するため取組みが必要である。	・柏市まちづくり公社、柏アーバンデザインセンター(UDC2)、市を含め、その他の様々な団体・組織等との連携を深めることで取組みの間口を広げるとともに、事業の継続性を高めること及び将来的な道路整備により、実施エリアの拡大を図ることでソフト、ハード両面から多彩な利活用を促進する。	・既存の企業や団体等の組織と新たな連携を模索としたイベント等の実施 ・新たな主体との連携による質的、面的な活動の拡大 ・歩行者の回遊性を高めることを意識したイベントの検討、コンテンツ(機能)や計画的な空間の整備

フォローアップ又は次期計画等  
において実施する改善策  
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

<input type="checkbox"/>	まちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

**添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画**

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度					予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	賑わいの創出 (歩行者交通量)	人	85,200	H31	94,100	R5	確定 ●	98,471	○	あり			
							見込み			なし			
指標2							確定			あり			
							見込み			なし			
指標3							確定			あり			
							見込み			なし			
指標4							確定			あり			
							見込み			なし			
指標5							確定			あり			
							見込み			なし			
その他の 数値指標1							確定						
							見込み						
その他の 数値指標2							確定						
							見込み						
その他の 数値指標3							確定						
							見込み						

## 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	各種の賑わい創出策の実施により、地区全体の魅力が増加、目標値を上回る歩行者交通量となった。	新たな主体との連携による質的、面的な活動の拡大を図り、回遊性を高め、賑わいの範囲を都市再生整備区域内に拡大するため取組みが必要である。
	うまくいかなかった点	柏駅前部分については賑わいを継続して創出し誘引できているが、範囲の拡大には至らなかった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	毎年度実施している「柏市中心市街地歩行者通行量調査」を活用することにより、同一箇所の比較を容易に実施することができた。	令和5年度から、カメラを設置し、同システムによる調査に移行することで、柔軟な調査期間の設定が可能となる。
	うまくいかなかった点	特定の一日のみの調査であるため、時期や催しものの有無等により生じうる差について考慮する必要がある。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	ダブルデッキ及びウッドデッキの利活用の取組みにおける新型コロナウイルス感染拡大対策として、地域の市民団体と連携し、コロナ禍でも利活用制度を再開するといった、取り組みの推進となる前向きな動きができた。	社会情勢を鑑みながら、市をはじめとする地域の組織・団体と調整・連携し、臨機応変な対応のできる弾力性のあるマネジメントを実施していく。また、当該利活用制度に関する情報発信を積極的にを行い、周知を図る。
	うまくいかなかった点	ダブルデッキ及びウッドデッキの利活用の取組みにおいて、当該利活用制度の認知が十分にされていない。	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	ダブルデッキ及びウッドデッキの利活用の取組みにおいては、制度手続き上初回の利用希望者には面談の実施等を定めて直接コミュニケーションをとる機会を設けており、さらに、実施後には実施報告書の提出を求めている。このように制度運用中の交流や意見収集を通じて、制度運用の反応を取得することができている。	利活用環境の状況を鑑みながら、市をはじめとする地域の組織・団体とコミュニケーションをとり、市内の公民学連携地区（一般社団法人柏の葉アーバンデザインセンター(UDCK)・柏アーバンデザインセンター(UDC2)）の活発な取組を参考にし、臨機応変な対応のできる弾力性のあるマネジメントを実施していく。
	うまくいかなかった点	ダブルデッキ及びウッドデッキの利活用の取組みにおいては、制度利用の簡素化に関する要望をいただくことがあるが、利活用する対象が公共空間であることを踏まえると、バランスをとった運用が求められ、ハンドリングが難しい。	
その他	うまくいった点		柏警察(交通管理者)と柏市(道路管理者)、柏市まちづくり公社(デッキ利活用事業者)を含めた関係者で、現状の把握と、さらなる体制強化も含めた今後の方向性について確認、整理、検討する。
	うまくいかなかった点	柏駅前における無断許可販売を含む治安維持について、防犯カメラに、現地巡視、柏警察(駅前交番)との関係構築等の対策を講じているが、有意な改善が見られない状況にある。	

### 添付様式6ー参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

- ・令和6年度に当地区(第3期)計画が開始予定。道路占用許可の特例を活用し、賑わいと憩いのある空間の整備を目指していく。
- ・令和5度に柏の葉キャンパス駅・柏たなか駅周辺地区において事後評価を実施予定。